



2022年1月号

発行所 沖縄医療生活協同組合
豊見城市字真玉橋593-1
とよみ生協病院(8階)
☎ (098) 856-3107
ホームページアドレス <http://www.oki-iseikyo.jp>
発行人 上原昌義



② 沖縄医療生協の現状 2021年11月末

組合員数 98,289人
出資金 19億4,904万4千円



桜とツミナー 写真：長堂 嘉秀さん

火の仕掛け

中正勇

老化のせい

午前四時過ぎに目が醒めたりする

しばらく寝床でうとうとし

日の出が夏とは二時間位の差があり

六時半頃からウォーキング

車の通らない川沿いの薄暗い道

道端の草木や花等を見ながら

川の小さなせせらぎを聞きながら

擦れ違う人たちとの小声の挨拶をかわしながら

しばらくすると陽光が現実を浮かび上がらせる

温もりを感じながら青い空を見る

かすかな生への望みをふつつつさせる

生きとし生けるもの達の背中を揮す

歩幅が大きくなり背筋が伸びる

朝食を済ませ日常の野良仕事へ

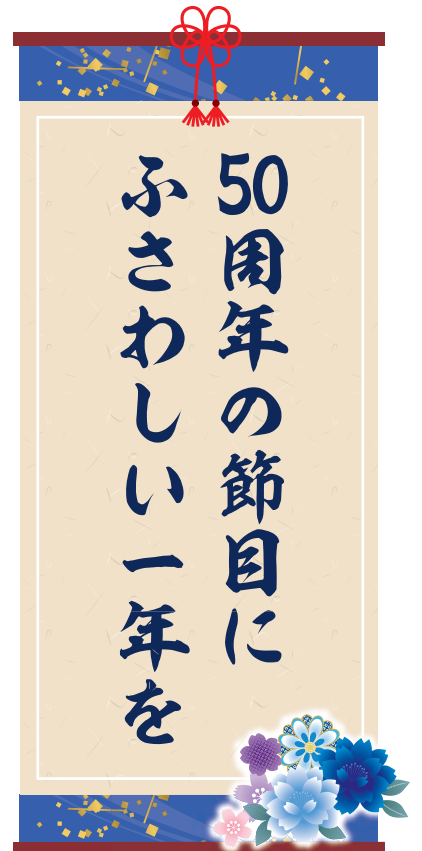
スコップを使い自力で耕し続ける

上空から同間隔の時間で聞こえる爆音の多さ

陽とは真逆の火の仕掛け

広島・長崎の恐怖に世界は気づいてきた

沖縄詩人会議「縄」四十号から転載



沖縄医療生活協同組合

副理事長 横矢 隆宏

組合員のみなさん、明けましておめでとうございます。ウィズ・コロナのこの2年は、外出や運動の機会が減った方も多いのではないのでしょうか。班会などの活動が制限を余儀なくされた一方で、ウェブ開催をしてくださった班や、SNS（ライン）や地域ラジオ（fm那覇）での活動紹介の発信など、新しいスタイルの活動が模索されています。

年すなわち沖縄医療生活協同組合の創立50周年を迎える年です。うまんちゅとともに未来をひらくを合い言葉に、「温故知新」や「協同組合のこれから」を考えることのできる記念行事を行います。「100年企業」の折り返し点にふさわしい一年にしていきたいと思えます。

コロナ禍は、医療崩壊の危機、貧困と極端な不平等の現実、金融・財政・経済の危機といった社会の弱点をあらわにしました。沖縄の平和の問題にも通底しているでしょう。予想していなかった危機を乗り越えるには、いざという時に使える資源を持つていくのかどうか鍵だそうです。私達の事業所が、そして組合員のつながりが、そのような資源となるような発展を目指していきましょう。

常務理事
香村 英俊常務理事
玉城 全一郎常務理事
照屋 智恵常務理事
伊泊 広二常務理事
高嶺 朝広副専務理事
宮 平 守副専務理事
外間 貞明専務理事
比 嘉 努副理事長
横矢 隆宏副理事長
大城 郁男理事長
上原 昌義理事
大嶺 自章
うるまブロック理事
岸 本 清
北部ブロック理事
長山 豊守
北部ブロック常勤理事
金城 宏乃常勤理事
玉城 和美常勤理事
新垣 哲治常務理事
上原 健常務理事
大城 恵理事
神山 藤義
那覇ブロック理事
永山 真知子
那覇ブロック理事
名嘉座 安子
那覇ブロック理事
具志 純子
那覇ブロック理事
當山 留美子
中部・浦添・西原ブロック理事
安里 嗣淳
中部・浦添・西原ブロック理事
宮良 信博
中部・浦添・西原ブロック理事
知花 盛考
中部・浦添・西原ブロック監事
屋良 節子監事
當間 知恵子監事
田尻 洋章監事
山里 昌毅監事
阿部 克己理事
玉寄 勝光
南部ブロック理事
川上 初美
南部ブロック理事
秋山 幹雄
南部ブロック理事
伊計 ノブ子
豊見城ブロック理事
赤嶺 光男
那覇ブロック

今年も共に 連帯の輪を 広げていきましょう



絵：上原和博

沖縄県生活協同組合連合会



会長理事 川越雄一郎

あけましておめでとうございます。

貴生協は新型コロナウイルス感染症対応において、重点医療機関として県の要請に応じて最大28床の病床を確保して対応にあたる他に、県内外でクラスターが発生した際に、感染認定看護師を派遣するなどの支援をされたこと、また救急車を断らない医療活動、無料・低額診療事業など、地域に無くてはならない医療機関として、県民の命と健康を支えていただいていることに、心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

県内の8生協組合員総数は40万5千世帯となつています。生協間連帯を更に強化し、組合員の命とくらしを守る取り組みを共に頑張っていきたいと思います。

安保廃棄・くらしと民主主義を守る 沖縄県統一行動連絡会議



代表幹事 新垣 繁信

～新春～ 沖縄医療生協のみなさん。

今年もご家族をはじめ皆さんがお元気で健康でありますよう心から願っています。

日本では政府が国民いじめの政治を長期間やって来たため、コロナ禍が続き、沖縄はその中心のひとつになってきました。医療生協の職員の皆さんは県民の生命とくらしを守るため日夜献身的に頑張っています。私たちは心から敬意を表します。

みなさん。

今年は沖縄医療生活協同組合が発足して50年になります。いま、国民が大変な生活環境におかれていて、全国的に自衛隊は米軍と戦争にむけた訓練を続け、国政は戦争する国へとまっしぐらです。日本国憲法を活かす政治を求めて共に頑張っていきたいと思います。

沖縄県保険医協会



会長 高嶺 朝広

新年おめでとうございます。昨年の当会定期総会において仲里尚実前会長が退任し、新会長に就任致しました。

新型コロナウイルスの感染拡大による景気、経済の低迷、医療機関においては減収による経営悪化など、出口の見えない状況が続いています。特に30年余にわたる医療費抑制政策による政策の歪が露呈する形となっております。

沖縄では辺野古新基地建設の設計変更の不承認を表明した県知事を支え、工事の中断を求める平和、民主主義を守る取り組みも重要と捉えています。

保険医協会の発展と県民医療の充実をめざし、沖縄医療生協の皆様と連携しながら、引き続き鋭意努力する所存です。

本年もご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

ヘリ基地反対協議会



共同代表 仲村 善幸

新年おめでとうございます。

昨年度は、コロナ禍の中にあっても医療生協の皆様が新基地建設反対の行動を率先して担っていただいたことに心より敬意を表します。

昨年末の11月25日、玉城デニー沖縄県知事が防衛局による新基地建設設計変更申請を不承認としました。ヘリ基地反対協議は、知事の決断を断固として支持します。新基地建設は計画そのものの破綻が明白となっております。今年こそ建設計画を断念に追い込むチャンスです。

いま私たち県民に求められているのは「新基地NO」の原点に立ち返って結束し、デニー知事と県民が一体となった県民運動を再構築して自公政権に立ち向かっていくことです。共に力を合わせ頑張りぬきましょう。

沖縄憲法25条を守るネットワーク



会長・琉球大学教授 高田 清恵

昨年は新型コロナウイルスの影響により、私たちの命とくらしが大きな危機にみまわれた1年でした。特に沖縄は、感染者数が全国最多となり、大切な人を亡くしたり、仕事や住まいを失って困窮する人々も多く生じています。医療・福祉従事者がまともな労働条件、労働環境のもとで働く権利も守られないままです。

コロナの影響は、私たちの社会の最も脆弱な部分をはっきりと明らかにしました。今後、これを教訓として、いかに「前よりも良い社会へ」と創り変えていくか、ということが問われています。だれ一人取り残されることがない、安心して生きられる社会へ。だれもが憲法25条の人間らしい生活を保障される社会へ。一緒に力を合わせてつくり上げていきましょう。

沖縄県社会保障推進協議会



会長 新垣 安男

新年おめでとうございます。

2021年は、コロナ禍のもとで、格差と困窮の拡大、「いのち」の危機が全土を覆いました。80年代から続く大資本の支配のための「新自由主義」改革が、不寛容な弱肉強食社会をつくりあげ、同時に、憲法どおりの社会を再構築しようとする人々の営みもすすみました。

2022年は、気候変動や軍拡による地球の危機とも相まって、正念場のせめぎあいの年。まさに安心して住み続けられるまちづくりをめざす医療生協の出番です。改憲と新自由主義を加速する分断政治から、「誰ひとり取り残さない」命を守る県政と国政を確立しましょう。自治体キヤラバンなど地域から進める社保運動をとすすめます。

今年もよろしく願います。



上原 昌義 (写真中央)
(沖縄医療生活協同組合理事長)
川平 節子 (写真左)
(元沖縄民主診療所初代薬剤師)
仲底 洋乃 (写真右)
(医療生協本部総務課)

仲底 新年あけましておめでとうございます。沖縄医療生協本部総務部の仲底と申します。今年、沖縄医療生協が創立50周年を迎えるに当たり、お話を伺っていきたいと思います。よろしく願います。

上原、川平 おめでとうございます。よろしく願います。

仲底 初めに、沖縄民主診療所は9人の職員から始まったという創立当初についてお話を聞かせてください。

川平 民主診療所ができたのは1970年の12月で松尾の小さな診療所を改築し始まりました。全日本民医連が沖縄に診療所をつくろうと動き出したのはその10年前でした。70年の創設前年に、県外にいる沖縄県出身の医療従事者が東京に集まり、初代のスタッフをどうするかの話がされました。私も参加し最初のスタッフとして行くことになりました。

当時の沖縄は米軍の異民族の支配下で、健康保険がなく診療は療養費払いでした。医療費を全額負担し後から返還される仕組みです。お金を工面できない方は、とてもじゃないけど診療に行けない状態でした。

当時の沖縄は公立病院と、

開業医の医院で、診療所が医療機関というのを県民がよく分らない状態でした。私たちはチラシをまき、地域の方々の協力により懇談会を持ちながら宣伝しました。開所までに医療懇談会が150回、2000名の方に診療所の意義や役割をお伝えしました。

上原 医療懇談会の回数、人数がすごいですね。

川平 ただ、患者の権利意識が弱かったのです。患者は医療機関がとて近寄り難い存在で自分たちの要求が言えません。患者を訪問した時、声が聞こえてきました。「この薬はマギサヌマラン（大きくて飲めない）」と言い、娘は「飲まなきゃダメでしょ」と怒鳴り返していました。私ももっと早く服薬指導に行くべきだと思いました。いくら民主的な診療所と言っても、なかなか理解されるのは難しいです。ですから私たちは患者の声をしっかり聞かないといけないなと思いました。「飲めない薬は粉薬に変え、つぶすこともできますよ」と話すと、おばあちゃんはおとした顔をなさっていました。

71年頃は被爆者の訪問や医療相談活動なども行い、老人健診も始まりました。72年頃は老人医療費の無料化を求める運動もやっている事を対話しながら地域での老人健診も行い、とても助かると喜ばれましたね。

上原 簡単には病院に行けない、病院も当然に少ない、患者が患者になれない。病人になっても患者になれないと診てもらえない。県民は当事者意識、権利者意識が低いなど大きな衝撃を受けました。

戦前の人口は約60万人でしたが、15万人が亡くなり、医療者も多く亡くなりました。そういう中での医療のスタートで、本土から引き揚げてきた人も含めて60数人の医者で医療が始まったと聞いています。当時は全国平均の沖縄の病院数や診療所の数は5分の1だったそうです。階保険は県外より6年遅れてスタートしました。

川平 先生方すごく忙しい中でも沖縄民主診療所の医療を浸透させたかったのだ、診察から往診、職業病の取り組みなど、大変でしたが熱心に行っていました。73年には、沖縄民主診療所で診察をした軍雇用員タイプピストは、職業病の頸肩腕症候群と診断され県内初の労災認定を受けました。

上原 あの頃から無差別平等の医療と福祉の実現をめざしていたのです。今でも私たちのキーワードです。そして、復帰後その精神を引き継ぎ沖縄医療生協が誕生したのです。

川平 沖縄医療生協の創立は72年です。健診活動が進んでいく中で健診車を買って、「かりゆし1号」と名付けられました。当時の名嘉専務が「サトウキビの穂が風に揺れる中を医療生協の健診車が走っていく姿、それが夢なんだ」と話されていた。それが実現した。職員にもやりたい医療がありましたが、それがな

かなかできないこともあり、少くとも実現できていくことがあり、疲れてはいても気持ちはあたたかい、喜びがありました。患者の言葉にも喜びがありました。私自身診療所の最初のスタッフとして仕事ができ、本当に良かったなと思いました。

上原 1960年代後半の限られた医療の中で、健康でいる状態がむしばまれて病気になる前にしっかりとそれを発見して治療につなげていく健診の役割はとても大きいと思います。

当時は、社会保険もない状態で自分の健康、健診などについて乏しい概念でした。自分が働いて生計を立てることが精いっぱい時代で、自分の健康よりも家計のためだっ

仲底 医療費が払えなければ、病院へは行かないですよ。

上原 当時、盲腸で1週間入院したら120ドル（1ドル360円）かかったと聞きました。当時の医師の月給は、60ドルでした。退院後は通院や定期観察もやらないといけません。保険がないので、かかった分の全額を準備しないといけません。そのような時代だったわけですよ。

当時の先生方の話を聞くと、誰でも一度は医者と呼ぶことがあると言っていました。それは医師が死亡確認を行い、死亡診断書を書いてもらうただけだったそうです。

川平 死亡診断書がないと、火葬やお葬式ができないのです。そのため往診もありました。

仲底 そのような歴史があり、今年50周年を無事に迎えることができるわけですね。

上原 先輩方の活動を振り返って

い方の診療、医療をよくするための活動など、本当に苦労されたと思います。中でも一番感動したのが腎臓病の患者のお話です。仲底さん、このできごとは知っていますか？

仲底 いいえ初めて聞きます。

上原 ある患者さんが腎不全で体中浮腫だらけで、身動きが取れず12年間寝たきり状態だったそうです。それでお子さんがお父さんの手を引いて診療所に来て「お母さんを治してください」と訴えたそうです。その子が持っていたのが民主診療所開院のチラシで、誰でも診てもらえるというような内容だったそうです。

その方が書いたエッセイがあります。医師や看護師、すべてのスタッフが関わり、お金がなくても医療を提供してもらい本当に助けてもらったとあります。すごいなと思いました。先輩方は忙しくて、毎日、帰るのが夜遅かったようです。

川平 そうですね。職員会議などもすべて診療が終わってからでした。私も乳飲み子を抱えていました。仕事を終え保育園に迎えに行き、そのまま連れてきてソファに寝かせ、会議に参加しました。あまりにも患者さんの状態が悲惨でしょう。自分たちのことは苦にならなかったのです。ふるさとがこんな状況というのは、薬剤師になって初めて分かりました。とにかくここを必死でやらなければいけない言葉を掛けていただき、どんなに疲れていても、また明日頑張ろうとなりました。

上原 やりがいですね。本当にこの9人の先輩たちがいなかったら今の50年もないわけです。あれから職員数も今1700人ぐらいになっています。

事業所あいさつ

沖縄医療生活協同組合

理事長 上原 昌義
副理事長 大城 郁男
専務理事 横矢 隆宏
副専務理事 比嘉 努
経営企画部長 外間 明
副専務理事 宮平 守
総務部長 照屋 智恵
看護部長 大城 恵
人事教育部長 玉城 全一郎
まちづくり推進部長 香城 英俊
経営企画部部長 山城 健一
本部職員一同

沖縄協同病院

院長 伊波 広二
副院長 横矢 隆宏
副院長 有銘 一彦
副院長 金原 喜代彦
副院長 山内 昌喜
副院長 橋本 昌喜
事務局長 宮城 悦子
看護部長 金城 悦子
職員一同

とよみ生協病院

院長 高嶺 朝広
副院長 比嘉 勉
事務局長 大城 藤枝
看護部長 大城 藤枝
職員一同

中部協同病院

院長 与儀 洋和
副院長 上原 健美
事務局長 玉城 和
看護部長 玉城 和
職員一同

那覇民主診療所

事務局長 嘉陽 信子
看護部長 新城 朱美
職員一同



私は平和なくして、健康、人々の生活は守れない、人の命は守れないと思います。医療者だからこそ、平和にも敏感になる視点が生まれたのはこの時期だったと感じています。

仲底 私は毎年家族で北部にキャンプに行きます。こんなにきれいな海にどうして軍事基地を建てるのだらうと思います。

上原 そうです。地域でも、困っている人がいたら、すぐ連れて来てくださり、診療所の信頼が厚かったことや医系学生らが県外から戻ってくるなどの条件が整い、病院建設を進められました。そういう強みがありました。

上原 南部医療圏には病院がありませんでした。協同病院の開設計が早かったのです。最新の医療をと南部では早くCTなどを取り入れました。私たちは地域の開業医の先生方とも定期的な勉強会や症例検討をしながら地域の医療レベルをみんなで上げる取り組みを行いました。夜8時ぐらいに診療が終わってからやりましたよ。

川平 医師の負担は、大変でしたよね。

上原 大変でしたけど楽しかったですよ。40周年から50周年を振り返ってみます。大きく変わったのは社会情勢でした。東日本大震災が2011年、福島に対する思いや震災で大きな被害を受けた東北地方の人たちに国は向き合っています。原発も再稼働や海洋放出などをやろうとしています。沖縄での基地被害や新基地建設を巡る問題と重なり、私たちの平和なくらしを求める運動につながっています。

川平 沖縄の医療状況を何とかしなければと職員全体同じ気持ちでした。患者、組合員が後押ししていました。ありがた

ンダー平等、人権問題なども私たちの取り組み課題だと思っています。そして、今後も無差別平等の医療と福祉の実現を大事な理念とし、地域組合員や若い人たちと一緒に頑張っていけたらと思います。

川平 本当です。10代の若者が環境問題に取り組んでいきます。私も、これまでの運動をどう進めていくか、どのように発展してきたのかを、組合員、職員も共に共有することが必要だと思います。そこを踏まえた上で、50周年以降のスタートにすることが大事だと思っています。

川平 これから団塊の世代が後期高齢に入ります。組合員もたくさんおり、大きな問題だと思います。忙しいと思います。職員の力を借り、地域の中で組合員のリーダーをつくらないかと思っています。老化を防ぐ、認知症の予防のための運動など指導をし、それを組合員が、組合員に伝えるということができないかと思っています。できるだけ通いやすいそれぞれの地域でできればと思います。

仲底 地域組合員の中で健康づくりリーダーを担ってくれる方を育てていくと言う事ですね。

仲底 地域組合員の中で健康づくりリーダーを担ってくれる方を育てていくと言う事ですね。

川平 養成してほしいと思います。そしてそれぞれの地域でやれるようにできたらと思います。

上原 いいアイデアですね。講習会を行い組合員も職員も一緒に学び成長していく場をつくるという提案はいいと思います。

仲底 日頃から集まれる環境と中心的に担ってくれる方という事です。そこに顔見知りの方たちがいると気軽に参加できると思います。

川平 近くに住んでいる所でやれるのはいいですね。今

リーダーを養成しないととも間に合いませんよ。団塊の世代の後期高齢者はすごい人数なので大変ですよ。

上原 2025年に一番多くなり、2040年までの15年間、フレイル予防などをしないと、施設に入れない状況や孤立死や孤独などがますます増えてくことが懸念されます。こういうときこそ次の50年は医療生協が期待されるのではと思っています。地域で健康の各種取り組みのリーダーが養成されれば、地域でもっと広がっていくことができます。まさに医療生協の出番ですよ。

川平 地域でもお互い助け合いになります。高齢者はあまり環境を変えないほうがいいと思います。遠くでやるよりは、地元でやれるのが一番いいと思います。

上原 私たちは今回のコロナでかなりつらい思いをしました。経営や医療活動に大きな打撃を受けました。組合員がエプロン（防護服）の寄付や出資金の増額、飲食物などの提供で応援していただきました。まさに組合員に支えられていた。医療機関だと実感しました。私たちの理念「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」そのために地域で求められて、その地域の人たちがモチベーションを上げてくれるような役割をみんなと共有しながら一体となつて取り組んでいくことが大事と思っています。それが協同することだと思っています。

仲底 今日は本当にありがとうございます。

上原、川平 ありがとうございます。

※対談時はマスク着用にて行いました。

所長	長城真千子	職員一同
所長	長原亜希子	職員一同
所長	長山内忍	職員一同
所長	長又吉毅実	職員一同
所長	長濱華恵	職員一同
所長	長島津邦	職員一同
所長	長比嘉直樹	職員一同
所長	長上原和博	職員一同
所長	長知念毅	職員一同
所長	長嘉数健二	職員一同
所長	長新城安男	職員一同
所長	長野原直美	職員一同
所長	長石川清美	職員一同
所長	長赤嶺守一	職員一同
所長	長上原幸盛	職員一同

ラジオ放送
fm那覇
78.0kHz

「沖縄医療生協にじのひろば」

毎週木曜日14:30～ON AIR!

毎週ゲストをお呼びして様々な情報をお届けします。

スマホでも
ラジオがなくても
アプリで聞ける!

ListenRadio

検索

聴き逃した時はfm那覇ホームページの
ポッドキャスト配信をクリック!

YouTubeでも聴けます。(見れます)

12月の放送内容です。ぜひお聴きください。



- | | | |
|-------|--------|------------------------------|
| 第52回目 | 12月2日 | 子どもの便秘 |
| 第53回目 | 12月9日 | 糖尿病患者の運動の仕方 |
| 第54回目 | 12月16日 | むせなく安全に食べるには
～摂食嚥下障害について～ |
| 第55回目 | 12月23日 | アルコールの上手な付き合い方 |
| 再放送 | 12月30日 | アルコールの上手な付き合い方 |

※ラジオで聴いてみたいテーマなどがあればお寄せ下さい。

問合せ先 まちづくり推進部 TEL 098-850-9004

つながりづくり強化月間の 終了にあたって



9月24日～11月30日まで「つながりづくり強化月間」でした。期間中、あらたな加入や増資などにご協力いただき、ありがとうございました。

11月末時点の到達実績では、組合員ふやし1,259人(月間目標比39.3%)、出資金ふやし77,340千円(同48.3%)、班づくり8班(同200.0%)、担い手ふやし30名(同30.0%)の結果でした。組合員ふやして4支部・3事業所、出資金ふやして7支部・4事業所が月間目標を達成しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が出され、4月～9月まで自粛期間が続きました。「今度はいつ会えるの、集まれるの」地域ではこうした声が聞かれました。やっと10月より活動再開となり、同時に強化月間が始まりました。「今、私達にできること」を合言葉に新とよみ生協病院建設を支える「年間2億円の増資」達成をめざして各地域、事業所で増資運動に力を入れてきました。今年の特徴点は、地域でオンラインの活用や高齢者組合員宅へ電話訪問行動、事業所での3つのふやし(定期増資、コロナ増資、手配り協力)をすすめて日常活動の勢いを盛り返してきたことです。

コロナをめぐり、オミクロン株の拡大が懸念されています。感染防止に十分留意しながら、年度末まで年間目標達成に向けて、引き続き力をあわせて頑張りましょう。



LINE 公式アカウント



沖縄医療生活協同組合の取り組みや健康に関する情報などを発信します!

友だち募集中

まちづくり推進部：前田
098-856-2519

職員募集



- 正規職員 看護師、助産師、看護補助者
- 勤務地 沖縄協同病院、中部協同病院、とよみ生協病院

※詳しくは(休日、給与、賞、手当等)沖縄医療生協ホームページをご覧ください。

お問合せ：沖縄医療生協人事教育部 TEL 098-850-3185 (玉城)

沖縄医療生活協同組合

困ったときは ぐらしの相談窓口へ

医療、介護、ぐらしなどで
お困りではありませんか?
お気軽にご相談ください。



〈窓口〉まちづくり推進部

Tel.098-856-2519

受付時間：月～金 9:00～15:00

相談内容をメモしておくと、スムーズな相談に役立ちます。

フードパントリー活動へ ご協力をお願いします。

沖縄医療生協は「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」の理念のもと地域組合員・職員組合員が一体となって様々なとりくみをすすめています。その中で地域の居場所づくりとして「子ども食堂」や「子ども無料塾」などを運営しており、今後も継続して支援が必要です。

組合員皆様のご家庭で余っている食材や生活用品などを子ども食堂や子ども無料塾へ寄付する事で子どもの居場所を継続して支援することができます。

フードパントリー活動へのご理解、ご協力、ご支援をお願いいたします。

フードパントリーとは

生活困窮者やひとり親家庭など何らかの理由で十分な食事ができない状況の人々に食品を無料で提供する支援活動の事



支援物品 米、乾物、缶詰、ジュース類、お菓子、レトルト食品、生活用品 など ※詳細はお問い合わせください。

問合せ先 ☎098-850-9004 まちづくり推進部(外間)

私のベストショット♡

自慢の写真を大募集!!



あなたのお気に入りの1枚を紹介してみませんか?
人物、風景、動物など何でも構いません。
あなたのステキな1枚をお待ちしております。



メールアドレス：okiiseikyodayori@yahoo.co.jp

問い合わせ連絡先：沖縄医療生協まちづくり推進部 ☎ 850-9004

1面左上に掲載予定です。応募の方法は、お名前・住所・コメントを明記の上、画像データを添付し、上記のメールアドレスまでお送りください。採用された方には図書カード(500円)を進呈いたします。

※画像データは、ご自身で撮影されたものを応募してください。インターネット上のデータは著作権侵害になる可能性がございますのでご注意ください。

今月のベストショット♡

飼主：長堂嘉秀さん

コメント：ベランダから見える隣家の桜には、一日中ソーナー(メジロ)が蜜を吸いに来ます。せわしないので撮るのは難しく、300ミリの長いレンズで何百回シャッターを切ったことか😅

定例理事会だより

◎第25期第5回理事会が11月27日に開催され、左記の議題について審議されました。

《報告事項》

- 1、各種委員会報告について
- 2、2021年度全国四課題実績報告について
- 3、組織運営規程集の管理について
- 4、2021年度上期会計監査報告について
- 5、労働組合関連について
- 6、やんばる協同クリニックの無料・低額診療事業開始について
- 7、創立50周年記念事業第9回事務局会議報告について

《決議事項》

- 1、糸満協同診療所所長人事について
- 2、規程の改定について

《協議事項》

- 1、10月度決算について
- 2、2021年度つながりづくり強化月間の取り組みについて
- 3、支部・ブロック活動拠点事業参加申請（みやこ支部）について
- 4、出資金残高通知の実施時期の変更について
- 5、新型コロナウイルス感染症対策と組合員活動指針について



全国四課題の到達

	11月	2021年度累計	累計
組合員ふやし（人）	294	1,259	98,289
出資金ふやし（千円）	12,572	77,340	1,949,044
班づくり（班）	4	8	363
担い手ふやし（人）	7	30	1,015

担い手ふやしについては、現勢を載せています。

組合員の皆様へ

大切な出資金をお預かりしています。住所変更やお亡くなりになられた場合は、名義変更や脱退処理が必要となりますので、お手数ですが、お早めにご連絡をお願いします。
TEL098-850-9004（まちづくり推進部）



新年は：

緊急事態宣言が終わり、少しずつ日常が戻ってきましたね。久しぶりに子どもの国に行くと、子どもたちは大興奮でした。新しい年はもっといろんな所に連れて行ってあげたいな。

玉城陽帆（那覇市）

油断大敵

コロナ感染者数をチェックするのが日常になり、安心と同時に油断してはいけないと気を引き締める毎日です。

比嘉啓子（豊見城市）

継続は力なり

毎日のラジオ体操と所要時間40分のウォーキングとストレッチを交互に行っています。継続は力なり、これからも健康維持のために続けていきたいと思っています。

運天厚子（豊見城市）

大満足

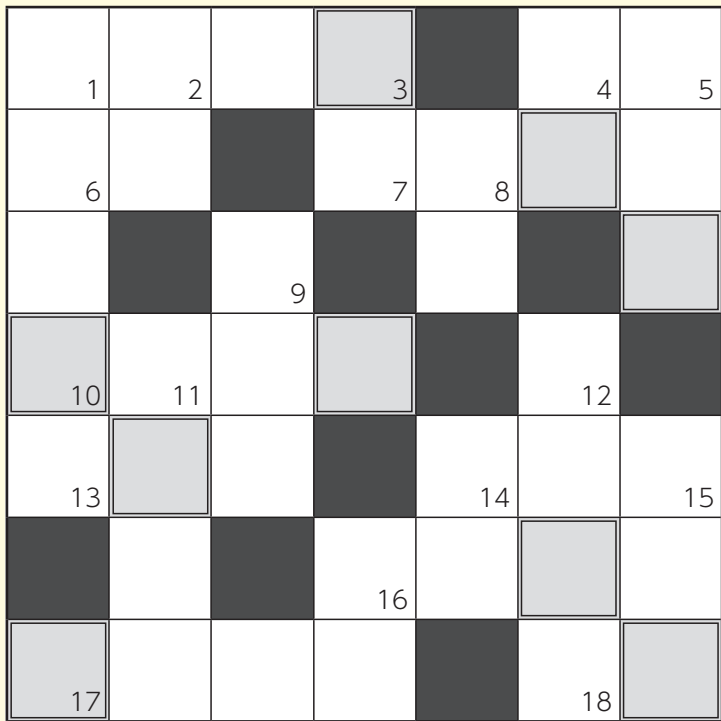
「今月の一品」は普段家にある材料で簡単に作れ、とても美味しかったです。すこしお、栄養満点で大満足！

黒澤悦子（八重瀬町）



ふれあい広場

クロスワードパズル



作・島袋 聡

タテのヒント

- 1、沖縄のお正月や生年祝い（トウシビー）など、お祝いの席に欠かせない郷土料理のひとつ。
- 2、口、鼻から空気を吸ったり吐いたりすること。また、吸う空気や吐く空気。
- 3、奇蹄目○○科の哺乳類。体は一般に大形で、顔が長く、たてがみがあり、長い毛の尾がある。
- 4、減らしたり傷つけたりする。そこなう。
- 5、小麦粉に少量の塩を加え、水でこね、薄く延ばして細く切ったものをゆでた食品。水泳用、救命用の浮き袋。
- 8、激しい変化や曲折のあること。また、そうした事態。騒ぎ、もめごとなど。
- 11、非晶質の含水珪酸（けいさん）鉱物。半透明または不透明の乳白色で、不純物により種々の色が現れる。美しい真珠光沢のあるものは宝石となる。体内に侵入した病原体が、まだ病気を起こさないでいること。

ヨコのヒント

- 1、建築物などの内部の設備や装飾。また、そのための工事。重なる。重なったもの。
- 4、火のけ。また、火。
- 7、土を盛り上げた所。小丘。また、土手。
- 10、立体模型。ミニチュアの人物や物と背景とを組み合わせ、ある場面を立体的に現すもの。
- 13、モリス・ルブランの一連の推理小説の主人公である怪盗の名。
- 14、建物などの内部の汚れた空気を排出して、外の新鮮な空気と入れかえること。
- 16、速く強く吹く風。はやて。
- 17、締め方や張り方がきつくないさま。衣服などのゆったりしたさま。
- 18、教えずとす。教え。

ブレイカイカ

ブ	カ	ツ	マ	ス	ト
ン	ウ	イ	ン	カ	ー
カ	イ	カ	ン	イ	ス
ノ	キ	ガ	カ	イ	ト
ヒ	ジ	シ	メ	イ	
	ビ	カ	ン		コ
ハ	キ	モ	ノ	ク	イ

当選者

- ・具志堅美江子（名護市）
・池田千枝（那覇市）
・諸見美枝子（那覇市）
・宮城調源（那覇市）
・ポッポコリン（那覇市）
・仲原ノブ（那覇市）
・玉寄敏子（那覇市）
・長山康子（那覇市）
・押元君児（那覇市）
・比嘉耕児（那覇市）
・美底まーくん（豊見城市）
・仲座隆子（豊見城市）
・宮城敏子（南城市）
・国吉美紀（糸満市）
・千葉裕子（石垣市）
- 36名の応募があり全員が正解しました。抽選で15名の方に図書カードをお送りいたします。
ご応募ありがとうございました。

応募の方法

- マス目に答えを記入し、2重枠の文字のヒントを参考に並べ替えて下さい。
- 締め切りは2022年2月15日（火）です。（消印有効）
- クロスワードパズルの解答・当選者は440号（2022年3月5日発行）です。
- ハガキに答え・住所・氏名・一言コメントを記載しお送り下さい。正解者の中から15名に図書カードを贈呈します。

■送り先
〒901-0294 豊見城市字真玉橋593-1（8階）
沖縄医療生協本部 まちづくり推進部
☎098-850-9004

二重枠のヒント

追い風を受け、帆がいつぱいにふくらむこと。転じて、物事が順調に思いどおりに運ぶことのとえ。



沖縄医療生活協同組合

50年のあゆみ

(1972-2021)

年月	あゆみ
1970 (昭和45) 年12月	沖縄民主診療所開設 (沖縄民診友の会)
1972 (昭和47) 年10月	沖縄医療生活協同組合発足
1976 (昭和51) 年3月	沖縄協同病院開院 (139床)
1977 (昭和52) 年3月	しらさぎ保育園開園
1978 (昭和53) 年5月	糸満協同診療所開設
1979 (昭和54) 年1月	沖縄民主診療所 那覇市泉崎に移転 那覇民主診療所に改名
1980 (昭和55) 年3月	沖縄協同病院増改築完成
1982 (昭和57) 年7月	沖縄協同病院全床オープン (365床)
1987 (昭和62) 年4月	中部協同病院開設
1995 (平成7) 年1月	首里協同クリニック開設
1996 (平成8) 年3月	訪問看護ステーションとよみ開設
1998 (平成10) 年9月	訪問看護ステーションいずみ開設
1999 (平成11) 年6月	浦添協同クリニック開設
1999 (平成11) 年7月	老人保健施設かりゆしの里開設
2000 (平成12) 年4月	沖縄市在宅介護支援センター美里開設
2000 (平成12) 年7月	沖縄協同病院付属とよみ診療所開設
2002 (平成14) 年4月	中部協同病院付属美里診療所開設
2006 (平成18) 年2月	協同にじクリニック開設 生協総合ケアセンター開設
2009 (平成21) 年6月	国場にじハウス開設
2011 (平成23) 年4月	沖縄協同病院新築移転
2011 (平成23) 年10月	とよみ生協病院開設
2012 (平成24) 年4月	安謝高齢者複合施設開設
2013 (平成25) 年2月	やんばる協同クリニック開設
2013 (平成25) 年4月	グループホーム安謝開設
2014 (平成26) 年1月	小規模多機能ホーム石川にじの家開設
2014 (平成26) 年10月	那覇民主診療所新築移転
2018 (平成30) 年4月	糸満協同診療所新築移転
2019 (平成31) 年12月	生協ケアセンター開設
2021 (令和3) 年1月	中部協同病院建替開院
2021 (令和3) 年1月	生協訪問看護ステーションなないろ開設



中部協同病院



▲那覇民主診療所



▲とよみ生協病院



沖縄民主診療所
9人のスタッフ▶



▼糸満協同診療所



▲やんばる協同クリニック



▲沖縄協同病院



▲沖縄協同病院
(2階建て)開院



天ぷらの盛り合わせ

材料 (1人分)

- | | | |
|------|------------------|-------|
| 天ぷら衣 | 小麦粉 | 100g |
| | 卵 | 1個 |
| | 水 | 180cc |
| | 塩 (具材用) | 少量 |
| 具材 | 小麦粉 (具材用) | 少量 |
| | エビ | 2尾 |
| | かぼちゃ | 2切れ |
| | ししとう | 2本 |
| | しいたけ | 1本 |
| | 玉ねぎ/ゴーヤー (かき揚げ用) | |

作り方

- 1 小麦粉・卵・水を混ぜて、天ぷら衣をつくる
- 2 具材に小麦粉 → 天ぷら衣をつける
- 3 180度に熱したサラダ油で具材を揚げる



沖縄協同病院
栄養管理室 調理師
神谷正志

